



歓迎会



魚釣り



和太鼓



紙すき

台湾や中国の生徒達も直ぐに親しくなります。中国語、フランス語、英語、日本語、スペイン語、タイ語、トルコ語、韓国語など、多様な言語を生徒達は使用します。スタッフも日本語、英語、中国語、韓国語と4言語に対応する事が可能ですが、生徒とスタッフ、生徒と生徒のコミュニケーションを助けるのは、主には生徒達自身です。サマースクール期間中、生徒間の通訳は教員がサポートしなくても大丈夫みたいです。そして、お互いが通訳しあう事で言語の壁は低くなり、自分とは異なる言語を使う生徒へと友達の輪が広がります。教室やバスの中、宿泊施設が生徒達の声で大人が我慢できないほど騒がしくなればしめたものです。

日本語の授業と漢字について

サマースクールの看板プログラム、日本語の授業は能力別に4つのクラスを準備しています。今年も事前に生徒からアンケートを集約し、日本語学習歴、家庭内言語などを把握した上で授業に臨みました。生徒達の授業内容に対する評価は概ね好評ですが、中には自分の苦手な漢字を勉強する時間が少ないなどの感想を述べる生徒もいます。

社会見学に行く前には訪問する施設について日本語で説明をする事もあります。座学と体験をリンクさせ日本語の学習効果を高めるためです。来年も事前のアンケートを大切に、クラス分けを行いたいと思います。それと、漢字の授業を少し多めにしても良いでしょう。漢字の成り立ちや漢字の仕組みなどを楽しく学ぶ授業、単に多くの漢字を覚えるだけでない授業が良いと思います。

アクティビティー

昨年は新型インフルエンザに悩まされましたが、今年は熱中症や水難事故の脅威が日本の夏を襲いました。サマースクールも残念ながら四万十川でのカヌーを急遽取りやめにし、校外の宿泊体験施設を利用した飯盒炊飯を含む体験授業に変更を

余儀なくされました。少し残念でしたが、安全第一を使命とする我々に取りカヌーの取り扱いは来年への課題として残りました。現在、明德の前に広がる浦ノ内湾でのシーカヤックのプログラムを検討しています。湾の奥まったところで実施するので波の心配も無く、また須崎市役所が主催するプログラムのため、公的な支援も仰げます。

さて、プログラムの中でスイカ割りをしたときの話をしたいと思います。スイカ割りは日本だけの風物詩、もしくはそれに近い事を思い知らされたのです。ご存知の通りスイカ割りは、目隠しをし、丈夫な木の棒を持ち、誘導者の指示に従い、スイカに近づき、スイカを割った後に食べる事を考えながら手加減しながらスイカを割る遊びです。それがなんと、須崎市よりお借りしたスイカ割り専用の、高価そうな木の棒を4本も折ってしまったのです。当然、スイカは粉々、食欲を損なう無残な状態です。日本人なら当然知っているルールを英語や中国語で丁寧に説明しなかった自分を責めても後の祭りでした。勿論、生徒達は大喜びで粉々になったスイカをほおぼっていました。

再会を誓う生徒達

実は、今年から明德の在校生5人が世話役としてプログラムに参加しました。彼らは全てのアクティビティーに参加、また宿泊施設でも寝食を共にするなど献身的にプログラムの成功のためにボランティアとして働いてくれました。各国よりサマースクールに参加した生徒の間だけでなく、世話役との間にも友情が芽生えた事は、第2回のプログラムの大きな成果だと言えるでしょう。別れの日、彼ら全員が再会を誓い、帰国の途についたのです。感動の別れで第2回ジャパン・サマースクールは終了しました。

以上で「第2回サマースクールどたばた記」の紹介を終ります。第3回は今回以上に充実したプログラムにすることを約束して・・・

明德義塾中学校・高等学校

〒785-0195 高知県須崎市浦ノ内下中山 160
TEL : 088-856-1211 (代) FAX : 088-856-3214
HP : www.meitoku-gijuku.ed.jp E-mail : info@meitoku-gijuku.ed.jp



このサマースクール、参加した生徒が本当に楽しんでいてのが、強い印象です。私がアメリカで3人娘を育てていた時に、このプログラムがあれば良かったな、と心から願いました。

テレビ番組の取材で訪問した日は、魚釣りででした。「何か助けが必要？」と余計な言葉をかけたばかりに、中国語やフランス語で質問されたり、絡まった釣り針をほぐしたり。しかし、私も高知の海を楽しみました。